

美しい地球を未来の子どもたちへ

経済活動の進展による CO₂ の排出が地球環境に影響を及ぼし、気温や海水温の上昇を招き、気象変動を引き起こしているという議論があります。一方で地球は温暖化しているのではなく、逆に寒冷化へ向かっているのではないかという議論も耳にします。ただ、産業革命以来の工業化で CO₂ の排出量が劇的に増え、北極圏の氷や氷河が次々に溶解したり、太平洋の小さな島々が海水面の上昇で侵食を受けたりするニュース映像を見ると、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会が地球環境に悪影響を及ぼしているのは確かなように感じます。世界の何十億人という人々は、等しく豊かな生活を望み、そのため経済活動は一層活発になって大量のエネルギーを消費。結果、ますます大量の CO₂ が発生。地球環境は一層悪化し…。そもそも、エネルギー資源はもちろん、食料などの資源がいつまでも供給され続けられるのかどうか…。このままでは、私たちの未来は真っ暗闇ということになってしまいます。

そこで、経済活動と環境保全との両立を図り、日常の社会活動、経済活動を環境に配慮したものへと転換。将来にわたっての持続可能な社会を目指すことが必要になります。環境に配慮した活動の推進、エネルギーや資源の消費の自主的節減。これらを体系的に管理することで環境への負荷を減らすわけです。経済活動と環境保全との両立。これは、非常に難しいテーマですが、もはやあまり猶予はありません。身近なところから取り組むことが肝心です。学校では、電気（こまめに消す）、水道水（出しっぱなしにしない）、紙などを無駄に使わない。給食の残食の低減、ごみの削減などの取組がこれに相当します。更に、地球環境に対する愛着心を育む観点から、生き物や自然を守る活動、校内外の美化、公園や河川などの地域清掃も有意義です

こうした、環境に配慮した教育活動を推進するため、神戸市の学校は、神戸環境フォーラムが運営する KEMS（神戸市環境マネジメントシステム）の登録を受けています。本校でも「環境宣言」を発出し（裏面）、教職員も子どもたちも積極的に取り組んでいます。今、玄関ホールに掲出されていますが、環境委員会の子どもたちからは自主的に「子ども環境宣言」が出されています。PTA の方々が行っておられるリサイクル活動、学校周辺の清掃、ガーデニングなども環境保全のための立派な活動です。学校から家庭・地域へこうした活動が広がっていくことが、そのまま地球環境保全へつながるのです。

私たちのこの美しい母なる星－地球の環境を、その大資源も含め、100 年後、200 年後、いやもっと先の未来の子どもたちへ大切に残していきましょう。